



# サーバス九州

日本サーバス九州支部会報 No. 176

2017年6月5日発行  
九州支部長

木々の緑も深くなり、初夏を迎え汗ばむ今日この頃です。庭のアジサイも花開き、まもなく梅雨入りとなるでしょう。会員の皆さまはお元気でお過ごしでしょうか？ 私たち新執行部もお引き受けした時は心配と不安でいっぱいでしたが、無事1年を終える事が出来ました。これも皆さまの御協力と励ましのお陰と心より感謝いたします。

九州支部では4月1日（土曜日）支部会議を行いました。（福岡赤坂あいれふにて14:00～16:30）宮崎、熊本、長崎、大分、佐賀、福岡から17名参加されました。2016年度の活動報告、会計報告のあと今年度活動計画、予算審議を終え博多座地下の御膳屋いおりで懇親会をしました。サーバス談義に花が咲き楽しいひと時を過ごす事が出来ました。（17:30～19:30）遠い所からの多数のご参加ありがとうございました。今年度の活動計画、その他話し合った事については下に記します。

サーバス九州支部会報176号（2017年6月号）をお届けします。  
掲載している内容は以下の通りです。

1. サーバス九州支部会議
2. SYLE 体験レポート
3. 「折り鶴 GIFT」プロジェクト  
中国四国支部&九州支部共同プロジェクト
4. トラベラー受け入れレポート
5. サーバス旅行レポート
6. シリーズ世界一周の旅
7. サーバス九州会員情報
8. サーバス九州からのお知らせとお願い
9. サーバス九州連絡先（常掲）

## 1. サーバス九州支部会議

### 1 秋例会

S さんのお世話で山口の湯田温泉に決まりました。瑠璃寺、中原中也記念館など  
見学 日時 11月25日(土)～26日(日) 詳しい事はまたお知らせします。

### 2 外国訪問

九州支部では2012年～2016年までの間に韓国へ3回、台湾へ1回訪問し現地の  
サーバスメンバーと交流してきました。今年はお休みして来年韓国で国際サーバス会  
議が開かれますのでそちらに参加する予定です。

### 3 LOI の申請について

LOI 発行にはスタンプ代 3,000 円が必要です。会計で入金を確認後、発行する事にな  
っていますので、申請する時は余裕をもって申請して下さい。

### 4 印刷版ホストリストから電子版ホストリストへそして来年から SOL へと移行します。

SOL とは Servas On Line System の事です。今までは自分の情報の修正、追加、削  
除などは支部長を通して本部の IT 部門でしていただいていたのですが、SOL では各個人  
にパスワードが与えられ、自分でそれができるようになります。また旅行をする場合  
もシステム上でホストを探す事ができ、お互いにメールでやり取りできるようになり  
ます。

パスワードで保護されており印刷版ホストリストや電子版ホストリストよりセキュ  
リティは高くなります。(パスワードは大事に保存しておいて下さい) SOL について今  
後の会報やメールでもお知らせしていきます。最初は不安と戸惑いがあるかもしれま  
せんが、分からない時は支部役員が対応致しますのでご心配はいりません。メールア  
ドレスをお持ちでない方も支援いたします。

## 2. SYLE 体験レポート

SYLE とは Servas Youth Language Experience の頭文字をとったものです。18～30  
歳ぐらいのサーバス会員を対象にしたものです。研修を希望する国のサーバスホスト宅  
に1カ月程度滞在して、語学や文化を学ぶプログラムです。

このプロジェクトにアメリカ人女性の T さんが応募され、4月25日から5月25日  
まで佐賀、長崎、福岡の6人のホスト宅にステイされました。下にホスト体験を書いて  
いただきました。

4月30日～5月5日

長崎県 会員 K.N.

日本語の勉強に意欲的なTさんには感心させられることばかりでした。

漢字やカタカナをまじえ、言葉を選んで書かれた日記にも「すごい」と感心させられる個所がいくつもありました。

難しい助詞の使い方の説明もしっかり聞かれ、こちらの勉強にもなりました。何より私が感心させられたのは、コミュニケーション能力でした。出会った人 たちと堂々と自分の考えを述べ、引き込まれる会話力で誰とでも打ち解けていく様子が至るところで見かけられました。私にとっても世界が広がったような六日間でした。受け入れる前は心配や不安が大きかったですが、貴重な楽しい体験ができました。ありがとうございました。

5月21日～5月24日

佐賀県 会員 N.M.

今から30年ほど前、アメリカ大使館に赴任して間もない女性が、彼女と同じように日本語だけで1ヶ月間を過ごしなさいという命令を受けて日本各地を回る途中、我が家に3日間ほど滞在された事があります。その時、これは非常に優れた修練法だと感心した事を覚えています。Tさんはそれに自ら望んでトライされ、見事に乗り越えられました。その努力に対して心から賞賛の言葉を贈ります！

彼女はこの1ヶ月の修行によって日本語を駆使する能力を飛躍的に向上させる事ができました。苦難を乗り越えて歓喜に到達した自分を誉めて欲しいと思います。そして、このトレーニングを通して日本語の上達と共に沢山の事を学んだことでしょう。それぞれの家庭で過ごすことによって多くの人々と出会い、名所を訪ね、様々な文化体験をしたりして、日本という国および国民に対して新しい知識や理解を得られたことでしょう。それは彼女のこれからの人生にとって大切な宝となるはずです。

我が家では4日間のステイで、一日目の夕方太宰府の歴史を勉強し、二日目に大宰府に出かけました。多くの外国人観光客の姿が見えました。神社を見学し庭園を歩き、名物の「梅が枝餅」を食べ、それから光明寺を訪れ、しばし静寂の世界に浸りました。三日目は柳川の川下りを楽しみ、北原白秋生家を訪ね、名物「うなぎのせいろ蒸し」を味わいました。四日目はサイクリングを予定していましたが雨になり、仕方がないのでDVDで屋久島の番組を見てると雨が止み、それで多久市にある孔子聖廟の見学に出かけました。

彼女は、もともと日本に興味を持ったきっかけが「サムライ」映画でした、と言われたので、帰宅後英訳「葉隠」の聞書を読んでもらいました。そこには佐賀藩の侍たちの生々しい生き方が紹介されているからです。できればALTとして再び日本を訪れるのが夢だと言われましたが、彼女にはそれを実現できる能力が十分にあると思います。

どうぞトライして日本に見え、いつの日か再び彼女にお会い出来ることを楽しみにしています。

### 3. 「折り鶴 GIFT」プロジェクト 中国四国支部&九州支部共同プロジェクト

中国四国支部の0支部長から広島市の平和公園にある「原爆の子の像」に奉納された折り鶴を広島市から譲り受け、それを外国から訪れたトラベラーに「折り鶴 GIFT」としてプレゼントし、折り鶴に託された思いを世界の人に伝える活動をしたと思うが、同じく原爆被害地である長崎を支部内に抱える九州支部とプロジェクトが組めないか、というお誘いがありました。これはサーバスが願う peace building の活動でもあると思いましたので、喜んでプロジェクトの立ち上げに賛成しました。

訪問されたトラベラーに「折り鶴 GIFT」のセット（折り鶴3つと英語で書かれた説明文）をお渡しする取り組みです。ご協力いただける方には準備が整い次第、お送りしますので、必要セット数（1年分の見込み）をお知らせください。幼くして原爆症で逝かなければならなかった SADAKO さんの折り鶴に託された「生きたい！」という願いを世界の友人と共有できたらと思います。

申し込みはT宛でのメールで結構です。どうぞよろしくお願い致します。

### 4. トラベラー受け入れレポート

#### ① オランダ K 君 2017年3月13日～17日

大分県 会員 K. C.

来る前からのメールで好きな食べ物や、やりたいことなどがわかっていたから、割とスムーズに受け入れたと思います。

5日間のHSについては、最初3日間をお願いしますとのことでしたが、社交辞令で、3日間はあまりに短すぎますねとメールしたら、「あなたの親切に感謝します。できることなら5日間お願いしたい」とのメールに押されてしまい、5日間となった次第です。

日本の食べ物では、かつ丼が好きですとのことでしたから、とんかつをアレンジした料理を何回か忘れてましたが作って出したりしましたが、毎回「おいしい」という言葉に最後は（ホンマカイナ）と思ったりしながらの5日間でした。

私の家の後は、四国88か所巡りをして、北陸、東北をめぐり、約2か月の旅を終えて、無事帰宅のメールが5月11日に着きました。最後にはあなたのカツどんのレシピをどうでも教えてほしいと書いてありましたから、結構おいしかったのかなと思っています。次に日本に来るときは、ハネムーンだねと言ってお別れしました。

② 韓国 Oさん、Kさん

2017年3月21日～22日

福岡県 会員 T. Y.

K.さんとは去年9月の韓国での東アジア会議で仲良くなりました。面倒見のとてもいい方です。お二人とも日本語が上手なのでコミュニケーションが楽でした。我が家では、本場のキムチをつくってくれました。白菜ひとつにナンプラー1ビン、一味唐辛子1ビン、袋入り乾燥唐辛子、塩たくさん、本だしなどさすがにすごい辛さでしたが、日がたつに従って辛い中にもまろやかな味に変わり毎日の食卓の一品になりました。後日「ご主人と遊びに来て下さい」と電話がありました。何度もお誘いを頂いているので今度こそお伺いしようと思い、6月中旬に行く事にし期限が切れていたパスポートを慌てて更新しました。

③ フランスからのサーバストラベラー受け入れ報告

宮崎市 会員 N. S.

受け入れ期日：2017/04/04 15:30 - 2017/04/06 16:00

トラベラー： M-J B (フランス、女性)； J-L F (フランス、男性)

二人は鹿児島から高速バスで宮崎駅に到着、迎えに行き車で我が家へ。玄関に荷物を置いてすぐさま二人ともにLOIの原本を提示された。2月23日の二人からの滞在希望のメールにはスタンプなしのLOIが添付されていた。2月25日にはメールでスタンプのついたLOIが添付されてきていた。そんなこともあり、玄関先で提示されたLOIが原本であることがすぐに分かり、その場でお返した。

一泊のあと、青島、日南海岸、鶴戸神宮などを車で案内した。

彼女はフランス西北部のLille III大学の教育学の教授として仕事され、日本人の留学生も彼女のもとで博士号をとり日本の大学で研究教育をしているとのことであった。1970年代に福岡で3年、京都で4年近くフランス語と教育学の研究をされた日本的な心遣いをされるとも印象に残る人であった。彼も優しい人で二人して2、3ヶ月毎年海外を旅行しているとのことであった。



現在のフランスでの政治状況と日本の状況を比べながら話が弾んだ。中でも、フランスの劇作家のイヨネスコの『犀』が話題となった。動物の犀が町に突然現れ、誰も信じようとしないなかで、徐々に人々が犀に変身していくという劇を見に行った話をされた。その演劇と現在周りで起きていることが同じ様だねと語り合った。(後で調べて、1960年初上演、2011年より世界のあちこちで上演されていることが分かった)。日本で犀が多く現れ、いつの間にか犀だらけになり、自分だけは犀にならないと頑張れるだろうか、という時代

が迫ってきている気がしてならない。

フランスの原子力発電の電力への依存率は80%で隣国へ輸出している、日本は2011年に福島原発の大事故があったのちも原発を再稼働している等の話でなぜそうなのか等など、話は尽きなかった。年金の話でこちらがびっくりしたのは、フランスでは基本的に65歳以降は仕事をして収入を得てはならない事になっている。それは、若い人たちの仕事を奪わないよう法律で縛っているとのことであった。日本とはずいぶん違う老後の生活であると感じた。

日本人同士では通常語り合えないようなことを海外からのトラベラーとは兄弟のように気軽に話せていろいろの考え方を知り、教えられる。これがサーバスの良いところだとトラベラーを受け入れる度に思う。

## 5. サーバス旅行レポート

北欧・ドイツ・フランス旅行記 その2

宮崎市 会員 H. T.

### ③ マルメ（スウェーデン）、リューベック（ドイツ）～ 話してみると、日本との縁が・・・

**28日**～ストックホルム発9：21の電車に乗り13：47にマルメ到着。City mapを見ながら予約していたホテルに向かいますが、意外と手間取りました。ホテルの直前で「日本人ですか？」と日本語で30代とおぼしき男性から声を掛けられました。スマホでホテル名を確認してくれました。彼は「大阪で日本語を勉強していた時に、日本人に親切にされた」ので私に声をかけてくれたのだそうです。チェックインした後、市内を観光。マルメ城やターニング・トルソを見学。帰路に方向を間違い、道を尋ねた男性が親切に道案内してくれました。彼は自動車関係の仕事で千葉県にいたことがあると言っていました。意外な所で日本との繋がりを発見して、少々嬉しくもありました。

**29日**～マルメ発8：13電車でリューベックに向かいます。1等車の座席をやっと探して座ったところ、高齢のアメリカ人から、「私たちは4人グループなのだが、席を替ってもらえないだろうか」と尋ねられたので、了承すると大変感謝されました。良いことをしたと思い、私も少々良い気分になりました。14：40にリューベック駅に到着。下車してプラットフォームを歩いていると、警官4、5人が中近東系？の若い男2人を乗車ステップのところで取り囲み、連行していきました。思うに無賃乗車が発覚したのではないだろうかと思いました。ホテルチェックイン後にホルステン門、市庁舎前マルクト広場などを観光。広場には、壁のない柱だけの屋根つきの建物がありました。昔のマーケットなのだろうかと思いに思ひ、カフェの屋外でお茶していた2人の男性に聞いてみると、その昔罪人を柱にくくり付け、唾を吐いたり石を投げたりしたのだと話してくれました。

#### ④ パリへ、そしてサンティ・チェンヌ、リヨンへ ～ 再会と countryside の生活を楽しむ

**30日～7:** 43発の電車でリュベックを出発し、ハンブルグ、ケルンで乗り換えしてパリに向かいました。ハンブルグからは1等車でしたが6名座りのコンパートメント、もちろん知らない者同士、ドイツ人の乗客ばかりで一言も交わさない。数年前の地中海旅行では同じ状況でもワイワイ大変賑やかでした。国民性の違いかなとも思いました。ケルンに15:00に到着。パリ行き電車の予約にThalysのオフィスに行くと、10月3日の祝日(月曜日)まで満席だと言う。困った!ただ、extra moneyを払えば予約できるとのこと。何だかおかしいなと思いつつも、パリ北駅には友人が迎えに来ることになっています。選択肢はないので仕方なく173ユーロ払いました。車中で分かったことですが、毎年この時期は分断されていた東西ドイツの家族、親族が行き来して集まる大切なMondayとのことでした。まだベルリンの壁が影を落としていることに思いをいたしました。夜の8時半にパリ北駅に到着。長年の友人であるアメリカ人のMさん出迎え、そのままレストラン(レユニオン島料理)に向かい、彼のガールフレンドと共に食事しました。メトロで彼の家に向かう車中、すぐ横の座席で2人のアラブ系青年とフランス人女性との間でフランス語で大きな声で言い争いが始まりました。Mさんの説明によると、2人が私のポケットを狙っていたのを女性が気づきとがめたのだそうです。勇気ある行動だったのです。彼女は「これがフランスだと思わないでほしい」と私に言い残して下車していきました。

**10月1日～**昨夜は遅かったので分からなかったのですが、彼の家は丘の斜面を利用した静かな住宅地にありました。窓を開けると自然の木々に囲まれ、鳥のさえずりが聞こえる素晴らしい環境です。**2日**は、昨年我が家にステイしたMさんと再会しました。サントシャペルとコンシェルジュリーを見学して、リュクサンブールガーデンを案内してもらった後パリリヨン駅まで行って、翌日のリヨン行きのTGV予約を手伝ってもらいました。窓口の女性が親切で面白い人で、Mさんが私とのやりとり会話を見て笑っていました。

**3日、サンティ・チェンヌへ～**9:00発のTGVに乗りリヨンで乗り換え、サンティ・チェンヌ駅に到着。今年4月我が家にステイしたJさんが迎えに来ていました。彼女の車で約30分、周りのはのかな田園地帯です。家には土地の斜面を利用したガーデンがあり、たくさんの花が植えてありました。今年は水不足でうまく育たなかったものもあるとのこと。夕食には、彼女がフランスの伝統的な家庭料理を出してくれました。シンプルなものだということでしたが、私には大変ゴージャスで、ワインとともにいただきました。食後には、フランスの政治、アメリカの大統領選挙やサーバスのことなどを11時過ぎまで話しました。

**4日**は村の中を1人で1時間ほど散策。見渡す限りの牧場が広がり、村の中心には教会、

遙か彼方にはアルプスが見渡せます。絵本に出てくるような風景です。感動しました。昼食後、車で約1時間近く走って大昔は火山だったという1200mの山の展望台に行きました。絶景でした。眼下には村の家々が点在、アルプスのモンブランも遠望できました。帰途、サーバス会員であるガラス工芸アーティストを訪れました。翌日は、彼女の運転で山上にある昔のお城に行きました。眼下に360度の絶景が広がり、ローヌ川やサンティ・チェンヌの町を見渡せます。

**6日**～Jさん宅を昼前に出て、リヨンに13時頃に到着。ホテルにチェックインして街歩き。夕方、昨年我が家にステイしたLさんと会い、彼女の自宅で夕食。手作りのアイスクリームをいただきながら、彼女や私の旅行談義などして22時ごろホテルに帰りました。翌日は、絹織物博物館に行き絹の歴史を見学しました。リヨンの絹工業は歴史があり有名なので、私にとってはかねてより機会があれば是非行きたい土地だったのです。入場券を買おうとしていたら、後ろから和服を着た日本人女性が声を掛けてきました。名古屋出身でリヨンに6年住んでおり、名古屋から来た友達を案内しているとのこと。彼女の詳しい説明で展示物をより良く理解できました。嬉しい出会いでした。記念に写真を撮らせてもらいました。観光後、TGVで15時頃パリリヨン駅に到着。友人宅に帰宅しました。



**8日**～朝食後、友人宅の近くの森を約1時間散策。ガールフレンドと3人で雑談、ショッピングで過ごす。夕方には彼女の女性の友達3人がやって来て賑やかでした。楽器演奏も始まりました。翌日は昔、修道院だった廃墟をうまく利用して、今はレストラン、ホテル、カフェとして衣替えしているAbbaye des Vaux decernayを訪れました。広大な庭園と池(湖?)があり、気持ちの落ち着くところでした。帰宅後、皆でお隣さん宅にお邪魔して手作りパイとお茶を御馳走になりました。夕食には私が鶏の唐揚げと味噌汁を作ったところ、大変おいしいと言って食べてくれました。材料が日本と少々違うので、工夫しながら調理したのですが、喜んでくれたのでまずは成功！ガールフレンドに料理のコツを伝授しました。

**10日、11日**～地元の駅でハグをして彼女に見送られてシャルルドゴール空港に向かい、11日に羽田着。

あちこちの国で、街でのふとした様々な出会いと触れ合いと親切に人間愛を感じ、友との再会とおもてなしに感謝し、その土地の営みに感動した3週間でした。世界のあちこちでの対立や争い事が、何て愚かなことだろうと今回の旅でも改めてつくづく思いました。



## 6. シリーズ世界一周の旅

2012年5月23日～24日 ギリシャ、アテネ～

熊本 会員 T.A.

サモス島を夕方出発した翌朝、アテネのピレウス港到着。そこから約30分歩き、ピレウス駅よりメトロに乗ってアテネ市内へ。事前にネット予約していたユースホテル ([Athens International Youth Hostel](#) 一人13ユーロ) に問題なく到着。荷物を置いた後、早速観光に繰り出した。まずは国立考古学博物館にて、時代別に展示されたギリシャ全土からの出土品を見学。紀元前のものとは思えないほど美しい彫刻やブロンズ像、壺などを堪能した。次に向かったのは、丘の上に立つパルテノン神殿。昼ごろの到着でまあまあの賑わいだった。階段をのぼってアクロポリスに入るのだが、だんだんと近づいてくる立派な石柱に興奮した。トルコやエジプトでもローマ時代の都市を見てきたが、こんなに立派に残っている神殿を見るのは初めてで、よくこんな大きな建造物を作ったな～と見上げる大きさだった。神殿見学後は、下に下って遅めの昼食を土産物屋などが並ぶ通りのレストランで取る。道沿いのテーブルで、ビールとピタパンサンドイッチを頂いた。

昼食の後は近くの「アクロポリス博物館」へ。アクロポリス周辺で発掘されて出土品が展示されている新しい建物の博物館で、主に石造の人を型取った柱やレリーフが飾られていた。国立考古学博物館に比べると、形が完全に残っている彫刻は少なく、私としては、国立考古博物館の方がお勧めだ。その後は円形の劇場を見学し、歩いて「国立庭園」の方へ。庭園近くの近代オリンピック第一回大会が開催された競技場を見学。今の大きな会場よりも小さめのグラウンドだったが、第一回目の大会が行われたと思うと感慨深い。

日が暮れる前に、ホテルに戻り、明日からの計画をネットで検索。本当は、ギリシャ中部にある奇石の上に建てられたメテオラの修道院やエーゲ海クルーズなどもしてみたかったが、メテオラは列車で5時間、駅からはタクシーで移動のことで、田舎でタクシーに乗る自信がなく断念。エーゲ海クルーズは、安い船を見つけることが出来ずに断念した。あと、ギリシャの経済危機の後でなんとなく落ち着かなかったので、明日のうちにイタリア行きの船に乗り、イタリアのバーリーへ移動することにした。22時ごろまで調べて、シャワーと洗濯の後、就寝。明日は地下鉄で駅に向かって初めてユーレールパスを使用する予定。

翌日は朝6時半に起床。港への列車のルートが分からないので、8時過ぎにホテルを出て地下鉄で一駅の [ATTIKI](#) 駅へ。ユーレイパスを使って港までの列車の切符を購入した。受付のお姉さんが乗り換えについて丁寧に教えてくれた。列車を乗り継ぎ、[KIATO](#) でバスに乗り換え約2時間で港近くに到着。船のオフィスでユーレールパスを見せ、手数料??12ユーロでチケット購入した(普段は78ユーロ掛かる航路だが、ユーレールパ

を持っていると時々船などが安く乗れる)。

16:30ごろ乗船した。今回はリクライニング式のシートしか選べなかった。自分達のシートのある部屋に大きな荷物を置く棚があるので、バックパックはそこに置いて鍵を掛けておく。そして、今日初めてのまともな食事をしに、食堂へ向かった。セットメニューでフライドポテトとステーキをオーダー。パンは取り放題だったので明日の朝食分も含めて取って来た。18時過ぎに船が出港。今日はほぼ1日移動だけで終了してしまった。19時過ぎに、友人は疲れたのか横になって寝てしまい、暇な私は夕日を眺めたり、TVを見たりして過ごしたあと、空いているシート3席を使って21時前には横になって眠った。しかし、0時過ぎになって、別の港からの乗客が乗ってくるために船員に起こされ、暫くして沢山の人が乗船。その後また3席分を使って横になって眠った。船や飛行機の中では、いかにリラックスして寝れるかが大切。どうせ汚い格好のバックパッカーだしと開き直った、耳栓、アイマスク、マスク着用の怪しい日本人が寝ていたら、私かもしれない・・・。

## 7. サーバス九州会員情報

### ○ 新入会員紹介

K. A.さん 福岡県北九州市在住

F. N.さん 佐賀県佐賀市在住

○ 九州支部会員数 48 家族 (福岡 11名、佐賀 6名、長崎 9名、熊本 3名、大分 11名、宮崎 6名、鹿児島 2名)

## 8. サーバス九州からのお知らせとお願い

### ○ レポートについて

サーバス旅行をしたり、トラベラーを受け入れた場合はその時の様子をぜひレポート(簡単な一口コメントでも結構です)をお送りくださるようお願いいたします。次回の会報に掲載させていただきます。

### ○ トラベラーを受け入れた場合は

①トラベラーの国名 ②トラベラーの名前 ③ステイされた人数 ④受け入れ期間 : ○年○月○日～○年○月○日、○泊○日 ⑤一頃感想をメモしておいてください。日本サーバスへの報告に必要です。受け入れられたらすぐ支部長宛てにメールをくださっても構いません。

### ○ 2017年度の会費納入のお知らせ

年会費3,000円の納入をお願いします。1月末までにお支払いいただく事になっています。まだお済みでない方は、会計の処理上お早くお支払いいただくようお願いします。郵便口座をお持ちでしたら振り込み手数料無しで送金できます。口座番号は次のページに記しています。

## 9. サーバス九州連絡先（常掲）

発行日： 2017年6月5日（176号）

発行者：サーバス九州支部長

【会費、認定料等の送金は以下にお願いします】

- 郵便口座をお持ちでしたらその口座からサーバス九州事務局の郵便口座へは送金手数料無料で振り込みできます。

記号：17240 番号：17160361

名称：サーバス九州事務局

- 銀行から振り込む場合 送金手数料は有料です。

店名：七二八（ナナニハチ）

店番：728 種類：普通

番号：1716036（有料）（これには末尾1不要）